

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373000423		
法人名	医療法人 新清会		
事業所名	グループホーム むつみ荘		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字佐敷371-6		
自己評価作成日	平成28年12月20日	評価結果市町村受理日	平成29年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成29年1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

むつみ荘は、創立19年目を迎えます。母体である篠原医院の横に位置し、医院と連携を図りながら利用者様の健康管理にも十分配慮し安心して暮らせる生活の場です。また、地域の行事など積極的に出向き参加する事でたくさんの方々との顔見知りになり優しくふれあって頂きグループホームをご理解の上色々ご協力頂いています。利用者様には、出来る事は何でもやっています。芦北は、海の幸・山の幸が豊富な所です。新鮮な食材を使用し、利用者様には大変喜んで頂ける美味しい食事を提供しております。地域に根ざし、地域の協力を頂き、住みよい暮らしが出来るよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護保険制度前に開設したホームでは、入居者の出来る力を引き出しながら、仲良く過ごすホームである。臥床中心であっても入居者同士のたわいのない会話や食事を作る音・匂いを感じながら共に過ごす姿や、入居により役割が出来たことで落ち着いた生活につながる等職員の観察力を生かしたケア姿勢や笑顔での明るい対応が、ハードでの困難な部分(既存の建物であり全てがバリアフリー化ではない)をクリアしており、質の高いケアが実践されている。医療との強固な連携は入居者・家族のみならず職員に安心を与え、主治医、訪看、家族、ホーム側がチームとして看取りケアに初めて取り組んでいる。地域の中で確固たる基盤が築かれており、地域の中で家庭観を一層醸し出した温かいホームが形成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域生活の継続支援と事業所と地域との関係性を重視した理念を大切にしている。又、むつみ荘独自の理念を掲げ地域との関係を大切にしている。	人間としての尊厳、主体性、個性の尊重を基本として、ホームとして今年は“笑顔・優しく・思いやり”を掲げている。開設して19年目を迎えたホームでは、職員の変動も無く、近隣住民も巻き込んだ避難訓練等地域との良好な関係が築かれている。入居者9名と職員との労いのある日常生活、「あんたば護らんばん」と仲良い姿に一層家庭観を深めたホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしたり近隣に住む人たちと触れ合うようにしている他、防災訓練など参加して頂き協力を頂いている。地区の花植え、どんどこや、廃品回収なども参加し交流の一貫としている。	町内会への加入の他、有線放送の設置が行事のリサーチ等を得る手段として更に地域との関係強化に反映させている。一汗運動や花植え、廃品回収協力等地域の一員としての活動や、散歩等外に出かけることで近隣住民との交流促進につながっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事に参加する中で、利用者様への接し方、対応を見ていただき認知症に対する理解を深めるようにしている。また、人材育成の貢献として研修の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様方の普段のありのままの様子をご覧頂きながらの会議状況となっており質問、意見なども頂いている。	定期的開催する運営推進会議は、区長・民生委員・公民館長や消防署長等多彩なメンバーで開催。ホームの取組みや活動・研修報告の他、地域に密着した事業所として展開できるよう活発な意見交換が行われている。地区の行事リサーチの場や消防署からの緊急事例報告等時節に応じた指導が行われている。入居者の見える環境での開催は、認知症ケア推進としても生かされている。また、委員もホームの行事(クリスマス会)に参加されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き事業所の実情やケアサービスを伝えている。参加される方により、熱心に色々質問もありその都度取り組みを伝えている。	運営推進会議により行政との関係が築かれ、認知症集中支援チームの委員として参画している。地域包括支援センターからの入居相談・紹介もある。生活福祉の調査訪問もあり、ホームもプラン提出に担当部署に出かけ情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。施錠は防犯の為にしている。	法人での研修の他、身体拘束廃止委員会での事例検討等に参加した職員による伝達講習により全職員が拘束の弊害を正しく認識している。1階が居室、2階を共有空間とし日中は2階での生活が中心であり、玄関は施錠している。職員に「今から下に行ってくる」と居室に戻る入居者もおられる。	無断外出等これまでは無かったことで気のゆるみが出たという反省に、「気を引き締めていきましょう」と意識の統一を図られている。今後も日中の生活スペースが2階であり、所在確認を徹底されることを望みたい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加し、ミーティング等で虐待防止に関する理解浸透や順守に向けて取り組んでいる。職員による虐待は無い。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在必要性はないが、研修等に進んで参加し、支援する体制をとっていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	約款書を説明し利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制の実際などについて詳しく説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが、未だに殆ど活用されていない。利用料金支払い時、要望、意見をたずねているが特に意見、要望は聞かれない。	家族に「なんでも言ってください」と話しかけているが、意見や苦情等も無く、家族の表情により思いを把握することとしている。また、訪問時や遠方の家族には利用明細や便り等による情報発信や、ラインでのやり取り等により情報の共有化としている。また、クリスマス会兼家族会が開催されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者と共に毎月会議を行い意見や提案について配慮いただいている。	毎月ケアカンファレンスでの意見等をもとに、代表・事務長・訪看等の参加による運営会議を開催し、設備面や入居者の状況等話し合っている。法人全体での忘年会や新年会の他、法人での研修が充実し、救急救命講習への参加等するスキルアップに努め、事務長は頻りにホームを訪れ、入居者及び職員とのコミュニケーションが図られている。管理者を中心とした風通しの良い関係性であることも、明るくケアに当たる職員の様子や入居者との会話などの端々に表れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境は申し分ない。職員同士の関係も良くできている。職員の資格取得支援は十分に行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外の勉強会、研修等に参加している。資料等は職員全員閲覧できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームブロック会にて勉強会、研修に参加し事例検討を通して同業者の意見や取り組みをケアに活かしている。交換研修も行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、本人に伺い本人の気持ちに共感しながら対応している。理解困難な方にもまず伺い、その後は察知しながら対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯状況についてゆっくり話を聞き、共感を持って受け止め、共に支援していくよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、相談に対して出来る限りの対応には努めている。空気が無い場合、一応申し込みはして頂くが、他事業所への紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たずお互い協働しながら和やかな生活ができるように働きかけている。家族同様の意識を持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人、家族の思いを共感し共に支えあい支援できる様に努めている。支払い時は、必ず面会してもらう様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援につとめている。	故郷訪問を行っていたが、重度化に伴い外出の機会がなかなか取れない。出来る方はぜひ故郷訪問したい。面会なども願っている。	家族や地域の方を伴い訪ねられる家族、遠方でも年に数回帰省し訪問されたり、外泊・外出等家族の協力を得ながら、馴染みの関係性を継続させている。町の文化祭に作品を出品し見学に出かけている。初詣や盆のお供え物・ハゲ饅頭等慣習等も継続し、故郷訪問も行っていたが、入居者の入替に伴い中止しているが、再開する意向である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は皆さん居間で過ごされ孤立することはない。出来る事をやって頂く時は、皆さんに声かけを行い、皆さんでやって頂くようにしている。役割分担が出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全く断ち切る事はない。相談があった場合には相談にのる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声かけ、話かけなど行い対応している。意思疎通困難な方へも必ず声かけ行いました、日々の行動や表情からくみ取り、関わる中で把握している。	入居者によっては、「何か手伝いをしましょか」等直接申し出る方や、意思疎通が困難な場合や難聴等個々の違いを認識したケアを実践している。職員は五感を生かしたケアや自信を引き出すよう声をかけ、口の動きとジェスチャー、耳元でゆっくり話すことで理解を得、それぞれ等行動を把握しケアに反映させている。“優しく 優しく”を合言葉に、各々に応じた声かけを徹底している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者などから色々な情報を得て把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活リズムの理解をすると共に行動や小さな動作から把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望や思いを聞き職員全員で毎月ケアカンファレンスを行い無理のない介護計画を作成している。	毎月のケアカンファレンスにより変更課題に応じた見直し、特に変更する事案は朱書きにて追記している。また、3ヵ月毎に医師・事務長・管理者・介護職員・訪問看護師等入居者に関わる関係者による担当者会議を開催している。日々の職員の観察力が生かされた、具体的且つ詳細な個別プランである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、個々の記録に記載し、申し送りノートにも記載情報共有を徹底し計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて情報交換し地区の行事や町の行事には出来るだけ参加している。(花植え、七夕祭り、文化祭、どんどやなど)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医、受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同行の受診となっている。不可能な時は職員が代行している。	入居時に協力医療機関の説明を行い、本人・家族の了解のもと全員が母体医院をかかりつけ医としている。入居後の健康診断や訪問看護をはじめ、適切な医療支援は家族の安心や信頼に繋がっている。専門科の受診については、家族の支援を基本としているが、ホームでも柔軟に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化を見逃さないよう、早期発見に取り組んでいる。変化に気づいたことがあれば、直ちに訪看、看護職に報告し、適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報を提供し、職員が頻繁に見舞い家族とも回復状況等情報交換しながら、早期退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う意思確認書を作成し、事業所が対応し得る最大のケアについて説明をおこなっている。看取りについては希望に応じて対応する。今回、1件の看取り希望もあり行う事ができた。	重度化・終末期については、入居時にホームにできる最大の支援について説明を行い、意思確認書を作成し、必要に応じて家族との話し合いの機会を。今年度10年程ホームで過ごされた方が、体調を崩し入院されたものの「最期は住み慣れたホームが一番」と希望され看取りが行われ、入居者も共に暮らした方へ手を合わせる時間を持たれたようである。家族や医師、訪問看護の協力により、ホームに出来る最良の支援が行われたことは、職員にとっても感慨深い体験となり、法人の勉強会でも家族の了解のもと事例発表の機会が持たれている。	家族がホームでの最期を希望された事は、日頃から最良の支援に努めた結果であると思われる。今後もむつみ荘にできる支援で入居者・家族を支えていかれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会には全ての職員が参加し体験、習得するようにしている。夜勤時は緊急対応マニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、地域の方々の協力を経て避難訓練を行い、消火器の使い方などの訓練もしている。夜間想定非難訓練実施済み。自主訓練(避難、伝達訓練)実施済み。	入居者は日中2階で過ごしているため、昼夜を想定した避難訓練や防災自主訓練を実施している。訓練には消防署や近隣者も5・6名の参加が得られており、参加できない時はその旨を伝えに来られるなど、日頃からの協力体制が窺える。また、消防署との連携も構築されており、運襟推進会議には署長がメンバーとして参加し、直近の災害や緊急搬送など統計をもとに報告されている。今回の熊本地震後も余震の心配から、夜勤者2名体制で2週間2階で生活する対応が取られている。	法人として防災意識が高く、多くの防火管理者が在籍しており、今後も救命救急資格の研修にも参加予定である。今後も火災や自然災害に対してあらゆる想定を行い、入居者、職員の安全を確保いただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保に努めている。又、本人を傷つけないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。	呼称は苗字にさん付けが殆どであるが、反応によっては下の名でも対応している。職員の守秘義務については、入職時や研修の中でも指導が行われている。また、採用においても、優しい対応ができる人を一番にしていると、法人事務長は語っている。臥床中心になっても日中は他の入居者や職員の声を感じながら過ごせるよう居間にベットを準備しており、排泄もオムツではなく、職員が手際よくスクリーンを配置しパット交換が行われていた。	玄関に置かれた面会ノートについては、個人情報の点から個別記入など検討されることが必要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせて声かけ意思表示困難な方には、表情、言動から汲み取っている。また、利用者より直接の思いや、希望が聞かれる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はしていない、一人一人の体調に配慮し柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人にも伺いながらスタッフにも相談しながらその人らしさを引き出せる様、身だしなみ・おしゃれをの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には配膳をお願いしたり、後片付けも手伝ってもらっている。介助しながら一緒に食事をする様にしている。	入居者の希望や冷蔵庫内を見て献立を決めており、殆ど毎日地域の物産館などに出かけ、主婦の目線で新鮮な食材購入を行っている。毎日の手作り料理は大好評であり、ホームだよりでの紹介や敬老会では米寿の入居者家族にも声をかけ共に祝うなど、ホームの食事状況を知ってもらう機会も持っている。家庭にあるような流し台が置かれた台所では、エプロンをつけた入居者の姿もあり、野菜の下ごしらえや茶碗洗いなどに励まれていた。	職員も見守りや介助を行いながら一緒に食事を摂る賑やかな光景は、大家族のようである。今後も、入居者と職員との食事風景であろうと楽しみなホームである。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量、水分量もチェック把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声かけ見守りをし、利用者によってはガーゼを使用し肺炎の防止につとめている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員リハビリパンツを布パンツに替えて取り組んでいる。定時、随時のトイレ誘導、声かけを行う事で失禁も少なく、トイレにて排尿する事が習慣づいている。少しでも家族の負担が少なくなればと配慮している。	ホームは布パンツで過ごすことの心地良さと、本人の自信や尊厳を持った生活を排泄の面からも支援している。全員が昼・夜布パンツのみやパットの併用であり、自立の継続や表情やしぐさなどから察知し誘導している。夜間もトイレやパット交換で対応しておりポータブルトイレの使用は行われていない。オムツや紙パンツに頼らない排泄支援は、家族にとっても負担軽減となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給には十分気をつけ、なるべく繊維質の多い食材を取り入れ、身体を動かすことを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの気持ち、習慣に合わせた入浴支援ではないが、声かけを行い個々に合わせた入浴支援を行っている。	浴室は、決して使い勝手が良いというわけではないが、狭さや高さのある浴槽をチームワークと技術力で毎日入浴を支援している。臥床中心の方には負担を考慮しながらも、週3回の入浴や清拭などにより清潔保持に努めている。職員は入居者に「気持ちよか〜！」と、言ってもらえるよう、湯船に浸かる入浴や中には入れなくとも体を芯から温めるようなシャワーの使い方など工夫している。また、個人の好みで入浴剤を使ったり、初風呂にゆず湯も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努力している。その時の状況に応じて休息など促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、一人ひとりの薬をケースに整理し、把握に努めている。また、服薬時は、きちんと服薬出来ているか確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人一人の力を発揮してもらえよう、役割分担を行っている。その後は必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化に伴い全員とはいかないが、心身の活性につながるよう本人の希望に応じて散歩に出かけたりしている。また、家族の協力にて外出などもして頂いている。	管理者は、戸外に出ることが大切であるとして、本人の希望や体調に配慮しながら近隣の散歩に出かけている。また、家族へ協力を依頼しており、自宅へ帰ったり買い物などへ出かけている。町の文化祭や花見ドライブなど、重度化に伴い全員での外出は困難になっており、ホーム便りの中にもそのことや、外出できない方にはホーム内で季節を感じてもらえるように努めていることを記している。	今年の正月は入居者が風邪のため、恒例の初詣やどんどや外出ができず、今月中には神社参拝に出かけたかったとしている。今後も気候や体調に配慮しながら、外出の機会を支援していきたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が困難な方が主であり、家族の了解を得て職員が管理をしているが、一名の方だけ、自分で所持することが出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	主に電話の取り次ぎを行って、電話での対応が出来る方は、大いに支援している。毎年賀状や暑中見舞いを出す支援はしている。 (本人様写真入り)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間と台所はつながっており、生活感あふれ五感を刺激している。居間には畳にソファを置き、心地良く過ごせるようにしている。また、花や飾りなどで季節感を出している。	居室や談話スペースが設けられた1階と、2階は居間や食堂・浴室などの生活空間となっており、職員は毎朝入居者を階段や昇降機を使っての移動から業務がスタートしている。臥床が中心になられた方も、日中は全員が2階で過ごし、入居者同士もホーム理念「笑顔・やさしく・思いやり」の光景を幾度となく見ることができた。ホーム内は職員の持ち寄った草花や、入居者の作品などの掲示により季節感を出しており、地域有線放送が備わった事で、入居者にとってはより自宅にいる雰囲気生活されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールには椅子を設置思い思い安全に過ごせるようにしている。2階廊下にも椅子を設置し、利用者様の居場所ともなっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	備え付けのタンスがあり、居室が狭いため家族からの持ち込みはあまりない。	ベッドやタンスの配置で部屋の殆どを占めるため、家族には自宅で使われていた寝具など最小限度の持ち込みで構わないことを伝えている。広さや設備など決して十分な居室環境ではないが、各部屋襖での仕切りの襖が懐かしく、手描きの似顔絵、日々の掃除や換気により居心地良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせて、昇降機の設置やひとりひとりのわかる力を見極め、必要な目印を付けたり、物の配置に配慮している。		